

おかげ  
さまで

## 日之影新聞

第7号

藁わら  
と

生きる



ずっと、

暮らしのそばに

藁細工づくりを生業として生きる若者が日之影のまちの奥に暮らしている。「工房たくぼ」の藁細工職人、甲斐陽一郎さんだ。日之影の農業を受け継ぎ、田んぼで稲を自ら育てながら、農家としてではなく藁細工職人として歩むことを志し、ひとり（正確には仲間たちと）道なき道をゆく挑戦者である。

仕事場にはこの日5人ほどの職人さんがいて、みんな一心に藁に打ち込んで黙々と作業をつづけていた。地べたに腰を下ろし、せうせと手足を器用に使っている。この土地で育ったこの土地の藁で、この土地の藁細工を編んでゆく。少しずつ少しずつかたちを成していった。

この地元の日之影のほとんどの家では、玄関に一年中しめ縄を飾る。そういう文化の残るこの土地のひとつひとつに、藁細工は必要とされている。そしてまた、はるかもっと遠い場所でも、誰かの暮らしの道具となったり、誰かの暮らしを彩る飾りものとなってゆく。「たくぼ」の美しい品々は、いま、全国から多くの注文が寄せられている。片手間でつくられた作品ではなく、ひとの暮らしに寄り添うプロダクトとして昇華されているのだらう。工房の壁に掛けられたしめ縄は、内に静かな生命力を滲え、実に美しかった。それは、日之影の棚田に育ち、眩しいほどの陽の光をめいっぱい浴びた藁の最終形なのだ。



# 藁細工、田んぼの先の手仕事



上から：工房たくぼの作業場にて。壁には様々な藁細工。／左が青藁、右が稲を収穫した後の藁。／藁の長さや大きさなど1本1本違うのだ。／若い移住者も、たくぼの仲間として共に働いている。

藁細工は、藁からつくられるもの。あなたはあたりまえのようにそう思うかもしれないけれど、ではその藁はどこから来たものか知っているだろうか。またあなたは最近「藁」を見たことがあるだろうか。藁は昔から、その丈夫で柔軟な性質から、閑散期の農家の手仕事となつて草履やほうきやしめ縄やいろいろなものにされてきた。元々はそここにある田んぼの稲の副産物としてどこにでもある珍しくもないものだった。しかし現代では、稲穂の収穫では当然のようにコンバインが使われ、稲の茎である藁は粉々に粉砕されてしまうから、綺麗なかたちの藁を手に入れられることなど滅多にないし、

あなたが目にすることもほとんどないはず。それに、農業そのものを受け継ぐ人も少なく田んぼも減っている状況のなかで、藁細工の技を継ごうと考える人などいないのが現状なのだ。

大きな台風が立て続けにやってこようとしていたその合間の8月のある日、日之影に眩しいほどの陽射しが降り注いだ。陽一郎さんはその瞬間を逃さず青藁を刈りに行かねばならなかった。もう一刻の猶予もないくらい差し迫っていた。というのも、青藁は稲が穂をつけ茎の内側から姿を現す初期段階までに刈り取らねば使えないから。独特の香りと艶をもつ青藁を、陽一郎さんは飾り細工の原料として重宝しているのだ（他方、稲穂の収穫後に残された通常の稲藁は、艶と香りが

少ない代わりに強度があるので、実用的な用途の藁細工の原料となるのだ）。ここ数日ずつ刈り取りのタイミングを見計らってきたが台風など悪条件の日が続いていた。このままでは穂が育ちすぎてしまうというギリギリのタイミングで、ようやく待ちわびた晴れの日を迎えたのだ。その青藁を刈る様子を取材させてもらうことはできなかったが、急峻な山の斜面の田んぼで稲を刈り、それを集め束ねて収穫・運搬する作業は、さぞや時間と体力を費やすことだろう。だが、原料である青藁を確保するチャンスは1年のうちのこのわずかな一瞬だけ。死活問題ともなりうる重要なときだった。いつでも原材料が手に入る工業製品とはわけが違う。稲藁は生きものなのだ。藁が手に入らなければ、藁細工づくりはじまらない。



# 種もみから始まる、 永い時をかけたものづくり

陽一郎さんは、藁からではなく、種もみから藁細工をつくる。ここでは農業はひとつのプロセスだ。田植え、田んぼの管理、刈り取り、収穫、藁干し。農の営みだけでも十分大変なのに、藁細工づくりからすればまだ準備段階。さらに藁を選別し、乾燥させ、保存する。そんな手順を経てやっと準備が整う。それからようやく腰をおろし「藁で縄を編(な)う」という藁細工の最初の手仕事が始まる。緻密な藁細工がかたちづくられていくには、さらにどれだけ膨大な手間と時間が費やされることだろうか。工房立ち上げから5年。いま、

陽一郎さんの藁工房「たくぼ」の作業現場は、ほかに誰も真似することのできない、唯一無二の価値創造の事業風景を生み出している。それもそのはず。日之影の棚田の風景を守ること。世界農業遺産にも認定された山間地の独特な農業文化を継承すること。神話が息づく日之影のまちの暮らしに結びつくこと。この土地に生きた陽一郎さんの祖父の手仕事の技を次代に繋ぐこと。そしてここに生きていく自分と仲間たちの道を創造すること。そのすべてが、この手仕事に込められ、表現されているのだから。

## 「わら細工」たくぼ

インフォメーション

かつて祖父がしていたという藁細工づくりを、孫である甲斐陽一郎さんが受け継ぎ立ちあげた藁細工専門工房。「たくぼ」とは昔から集落で呼ばれてきた屋号である。農業を営み自然と向き合いながら、原料となる藁の調達も基本的にはすべて自分たちでまかなうという、まさに「種もみを撒くところから始まるものづくり」を実践中。しめ縄や飾り物、縁起物、特注品など、昔からあるものだけでなく現代の暮らしにもフィットするものづくりにもトライしながら、受注生産を行なっている。

所在地：宮崎県西臼杵郡日之影町大字七折1378212  
電話0801179210753



左上から：暮らしの飾り物には青葉を使う。艶や香りがいい。／藁で編まれたツールは人気商品。／地べたでの作業。腰や目にも負担がかかる。／青々とした棚田の風景。お米と美しい藁細工を生む、宝の大地。／右下：日之影ではどの家の玄関にも一年中しめ縄が飾られている。



# 使える かなこの 日之影方言教室

## 「旅の小話」



（記）

こないだ、仲んいい〜女友達6人で、温泉旅行に行ってきたとよ〜。ま〜。楽しかった。飛行機やら、新幹線やら、電車やら、バスやら乗り継いで、行ったつよ。駅やらで道が分らんこつなつたら、そこ辺におらす人を引つ捕まえち聞いて、歩き疲れたらよこて、ちいっつとでん不安になつたら、また、そこ辺におらす人を引つ捕まえち聞いて、目的地の温泉旅館に着いたわ〜。みんな、優しいゅう教えちくれたがね。毎回思うとよ〜！何とかなるもんじゃがね〜。

旅館じゃ、みんなで、「ありがたいばい、こりがいいばい」って言いながら、子供やら、孫やら、友達やらに土産をいっつこつ買うて。晩も朝も、うめえもんを腹いっぱい食うて。あいさあいさにもぺんも温泉に入ったつよ。ま〜髪やら肌やらつるつるして、美しいなつたばい。（誰もゆううちやくれんき、われがち言うけんどん）。とぎがいき、何でんね〜話でん面白してね〜、ワッハワッハ！言うて、話も弾むとよ〜。

先日、仲の良い女友達6人で、温泉旅行に行ってきました。本当に楽しかったんですよ。飛行機、新幹線、電車、バス等乗り継いで行ってきました。駅で迷ったら、近くの方に声をかけて伺い、歩き疲れたら休憩して、少しでも不安になったら、また、近くの方に声をかけて伺い、目的地の温泉旅館に着きました。みなさん、優しく教えてくださいました。旅行に行く度に、何とかなるものだな〜と思います。

旅館では、みんなで、「あのお土産が良さそうよ、このお土産が良さそうよ」と言いながら、子供や、孫や、友達にお土産をいっつこつ買いました。夜も朝もおいしいご飯をおなか一杯頂いて、お土産を買ったり、ご飯を食べたりする間に、6回も温泉に入りました。髪の毛も肌もツルツルになりました。きれいなので、自分で勝手に言いますけれど、良い仲間なので、些細な話でも面白くてですね。いっつばい、いっつばい笑って話も弾みました。

さて、またみんなで貯金して、次の旅行を楽しみに、日々頑張りますよ！

さ〜れ、またみんなでお金貯めち、次の旅行を楽しみに頑張らばい！！

講師：日之影町役場 甲斐 賀奈子  
私は、根つからの日之影人。毎日、方言で町民のみなさまと会話をしています。

### お料理

## 左近の逸品



## ヤマタロウガニ 塩ゆで

地元では「ヤマタロウガニ」とも呼ばれるモクスガニ。美しき五ヶ瀬川で採れたものをいただく。ヤマタロウガニの塩ゆでは、味も見た目も上海ガニといっしょ。左近のおじさん曰く「カニのなかでは一番おいしい」。やや小さいサイズであったため、身をほじくるのはちよつとめんどくさいが、とにかく根気よく甲羅を分解していき、あとは口をつけてチューチューと吸っていくとカニの旨味が口中に広がります。まさに至福のひとつが訪れる。

居酒屋・左近  
宮崎県西臼杵郡日之影町七折3-18-11  
17時〜不定休 ※要予約  
0905-1807-1318

### 活動報告

## 緑のふるさと協力隊が行く！

こんにちは！第25期「緑のふるさと協力隊」の高橋直斗です！2018年の4月から日之影町に来て、もう半年が経ちました。生まれが東京で、田んぼや畑に入った事が無く、農山村の暮らしを何も知らなかつた僕にとつて、農作業を初めて、日之影町の暮らしは毎日新鮮で、新しいこと連続です！

そんな日之影町では暮らしに困るだけで心が安らぎます。山に囲まれ、坂道の多い日之影町では、車でどこを走っていても開けた景色が多くあります。緑の深い山に透き通つた川、どこまでも続く棚田、それらの景色が季節ごとに色を変えます。移動中でも思わず立ち止まって見惚れてしまう景色がたくさんあります。そんな日之影町の中でも、僕のお気に入りの場所は大楠の展望所です。町場を一望できる最高の場所です！休みの日にお弁当と本を持って、絶景を前にのんびりする日もあります。

まだまだ日之影町の美しい景色を知っていきたいので、みなさんのお気に入りの場所を教えてください！町内どこにでも駆けつけるので！



### 今月のおかげさま



おかげさまで、  
キャンプの季節になりました。

日之影キャンプ村の管理人をする中で、たくさんのお客様との出会いがあります。子どもが自然の中で大はしゃぎする姿や、大人が童心に返って遊んでいる姿を見ると、こちらも元気をもらえて楽しいです。お客様に、「たのしかった〜」と言ってもらえるように、思い出に残るキャンプ場をつくっていききたいです。

ただのり(63さい)



おかげさまで、日之影。

発行：日之影町 882-0402 宮崎県西臼杵郡日之影町大字若井川3399番地1 / ☎09982-8713900(代表) 企画：株式会社オスマビアール 編集：菅原良美(総務編集) / アートディレクション & 写真：小坂橋基希 (akao) / デザイン：難波知子 (akao) / 取材・文：空豆みきお (akao) 一禁・無断転載 ©hinagata. All Rights Reserved.